

EdTech 導入補助金2022

令和3年度補正 学びと社会の連携促進事業
(先端的教育用ソフトウェア導入実証事業) 費補助金

効果報告レポート

【事業者名】

株式会社137

【ツール名】

学校連絡・情報共有サービス
COCOO(コクー)

【ツールの機能分類】

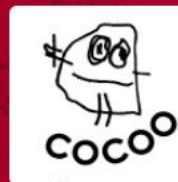
オプションツール
(校務支援・教職員研修等)

2023年2月

より良い学びの未来をつくる
学校連絡・情報共有サービス

COCOO (コクー)

For teachers and school administration
For parents
For children & students



【教育DX】誰一人取り残さない

教育にエビデンス (科学的根拠) のあるアプローチ

1 欠席連絡自動受付

電話とWebで24時間受付

電話音声は**多言語対応**
(日本語/英語/中国語/スペイン語)



出席簿形式 ダウンロード&印刷可能

2 家庭への連絡

アンケートも簡単作成

電話やスマホ、PCでの
受信・回答OK!



メールや音声メッセージの
一斉配信&自動集計も対応

3 カレンダー共有

プリント配布の手間を削減

クラス別/全校単位も
登録可能
保護者カレンダーに
リアルタイム表示



予定変更の通知も対応
ご家庭の予定の追加もOK!

【学校COCOO主な3つの機能】

学校と家庭・先生同士の「連絡・情報共有」をもっと便利に もっと快適に

1 欠席連絡自動受付

電話とWebで24時間受付

電話音声は多言語対応
(日本語/英語/中国語/スペイン語)



出席簿形式 ダウンロード&印刷可能

1 24時間欠席連絡自動受付 電話もWEBも自動集計。出席簿の自動作成/出力可能！
学校ごとに2つの専用電話番号をシステムに組み込み、朝の職員室の電話がほぼ鳴らない環境を生み出しました。

電話

学校指定の専用電話番号で24時間受付。
保護者は音声自動応答に従い、プッシュ操作で欠席登録。
(日本語・英語・中国語・スペイン語対応)

スマホ・PC

保護者専用Webでいつでも欠席連絡の登録可能。メモ欄付。
保護者様専用Webサイトのカレンダーで記録の確認も簡単！

2 家庭への連絡

アンケートも簡単作成

電話やスマホ、PCでの
受信・回答OK!



メールや音声メッセージの
一斉配信&自動集計も対応

2 家庭への連絡 保護者様ご自身で希望の受信方法に設定可能！

お子様1名ごとに、保護者様3名までメールまたは電話への配信登録が可能。
メールからも保護者様専用Webからでもお知らせ確認ができます。

スマホやPCを利用しない保護者様には、
電話に音声情報が届きます。アンケートにプッシュ操作で回答ができます。

3 カレンダー共有

プリント配布の手間を削減

クラス別/全校単位も
登録可能

保護者カレンダーに
リアルタイム表示



予定変更の通知も対応
ご家庭の予定の追加もOK!

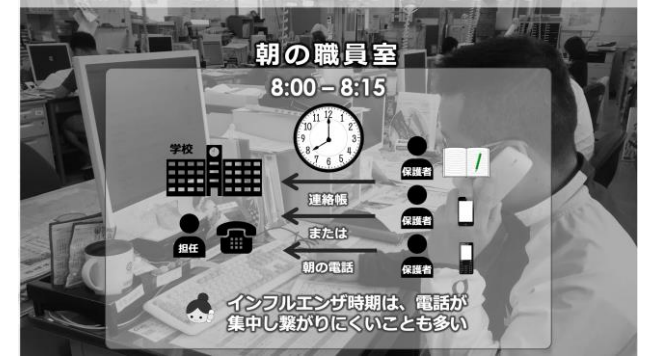
3 カレンダー共有 学校の予定は、家族と共有・自動更新されます！



教職員が登録した予定は保護者様専用Webサイトのカレンダーに共有！
保護者様は、保護者専用Webサイトから、お子様ごとの行事の確認の他、
お子様ごとの欠席連絡、お知らせ確認（アンケート回答）などができます。
※行事登録や日程変更のお知らせは、学校から保護者様へ自動通知される機能
(学校設定) があります。

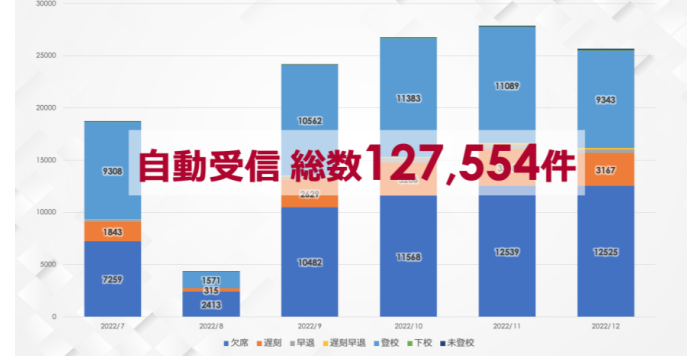
COCOOは 専用電話番号を2つ提供

職員室の電話が激減 話し中にもならない



EdTech2022 導入校 欠席連絡受信数 (月別)

【対象校】 EdTech2022採択 87校 【集計期間】 2022年7月~12月

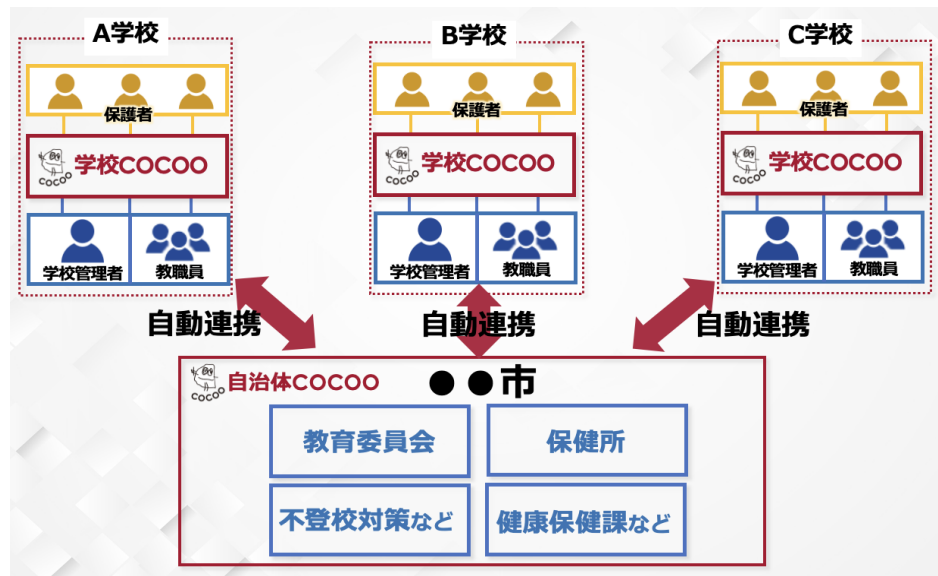


【教育DX COCOO の特徴】 誰一人取り残さないをテーマに、教育情報プラットフォームとして新たな価値を生み出し、教育現場の課題を解決するICTソリューションです。

- ① 誰一人取り残さない 情報共有インフラ構築による新たな社会的・経済的価値の創出
- ② リアルタイムな情報共有によるデータの可視化、エビデンスに基づくアプローチの支援

学校や教育の社会課題を解決するための事業構想からシステムデザイン設計されたCOCOOは、コロナ関連欠席者の増加や体調不良などによる長期欠席理由をより詳細に自動集計し、ケアが必要な学校・児童生徒の存在に早く気づくデータ利活用の環境構築に向け、学校と自治体とのデータ自動連携やデータの可視化へと進化しています。

※国内特許取得、国際特許PCT出願完了



This complex block features the COCOO logo and the title '情報連携・情報共有のイメージ' (Image of Information Linkage and Information Sharing). A large blue banner reads '先生は入力しません。保健所や教育委員会へ 全自動連携' (Teachers do not enter. Full automatic linkage to health centers and education committees). Below this, a flow shows '保護者' (Guardian) using a smartphone to connect to '学校' (School) via '自動連携' (Automatic Linkage). The school side shows '学校管理者' (School Manager) and '教職員' (Staff) icons. The '自治体' (Municipality) side shows '職員' (Staff) icons and '教育委員会' (Education Commission) and '保健所 他' (Health Center, etc.). A central box highlights 'データ連携の自動化&可視化を実現!' (Achieving automation and visualization of data linkage!). Below this, a screenshot of the system interface shows '月別の出席簿作成も全自動化! 先生の入力&集計は不要' (Monthly attendance sheet creation is fully automated! No teacher input and tallying required). It also notes '出席簿と異フォーマットに自動集計表示 出席簿としてダウンロードし、印刷も可能!' (Automatic tallying and display in different formats, can be downloaded and printed as attendance sheets). A date stamp at the bottom right says '2022年11月 特許査定中' (November 2022, Patent pending).

【利用料 (税抜)】 学校COCOO 初期導入費 30万円/校 ※自治体様にて全校導入の場合、別途ご相談対応いたします。
月額利用料, 3万円/月 (児童生徒数+教職員数 1000人未満の場合、2電話番号+電話通信費込)

■ 学校等教育機関の抱える課題

【学校現場が抱える課題】

- 1 先生の長時間労働
- 2 情報共有の非効率・不確実性
- 3 学校に行きにくくなっている児童生徒の増加

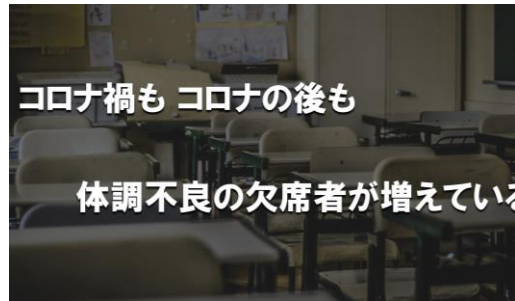
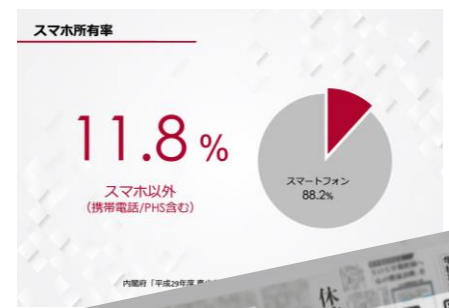
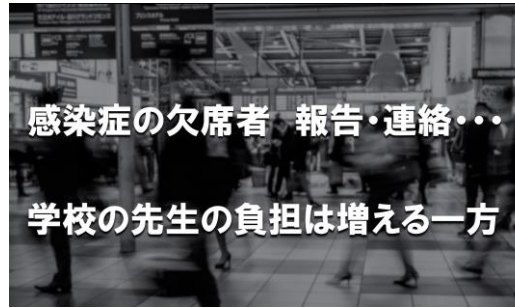
早朝と放課後に業務が集中

7:30~19:01 ▶ 11時間超

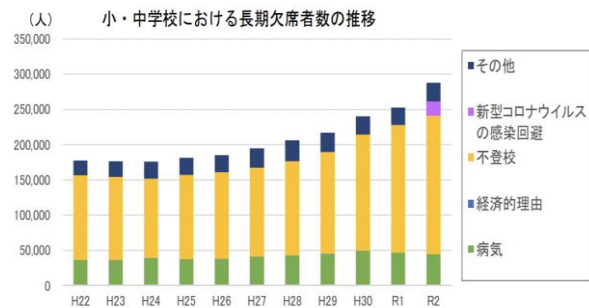


※不登校または不登校傾向児童の増加 推計約43万人(全体の13.3%)
(日本財団「不登校傾向にある子供の実態報告書」)

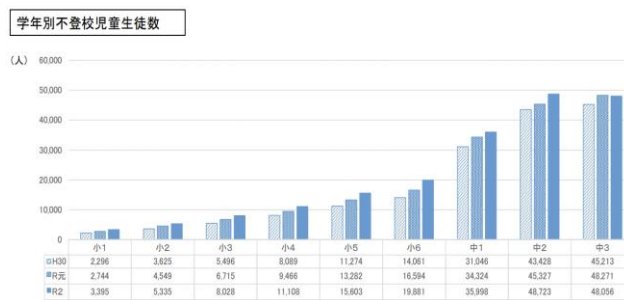
【教育現場における社会課題】



小・中学校における長期欠席の状況について



小・中学校における不登校の状況について



出典：文科省資料[令和2年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要]から
https://www.mext.go.jp/content/20201015-mext_jidou02-100002753_01.pdf

■ EdTech導入補助金2022における活用事例

1 先生の長時間労働



- COCOOで欠席内容が分かった上で、家庭に連絡できるので助かっている。保護者からの欠席連絡メモが全職員に共有され、緊急性を要するのかどうかの判断にも非常に役立っている。（中学校 校長）
- COCOOでお知らせを配信することで、節約できた印刷代等を学校の設備費に回したり、空いた時間をデキタスを用いた授業の準備・構成検討に使用する等の相乗効果が感じられた。（小学校 副校長）
- これまで紙ベースで配付していた文書等をお知らせ配信で配付しました。お知らせ機能では、先生のメールアドレスが開示されずに、生徒の保護者ともやりとりができるようになりました。（中学校 副校長）
- お知らせ配信は、学年・クラス・個別に配信できるので、欠席者への連絡、懇談日程調整、クラス等の連絡、単元テスト等のアナウンス、修学旅行等の菜をCOCOOで配信し活用しました。（中学校 副校長）
- 縦型の大型モニターにCOCOOを投影し、職員がいつでも欠席連絡が確認できるようになりました。
- これまでホワイトボードを写真撮りし、印刷してファイルへ保管していた保健簿（1年保存）を、COCOOの集計画面で代用できるようになり手間が非常に減りました。（小学校 養護教諭）

2 情報共有の非効率・不確実性



- 緊急性の判断に有用な情報が欠席連絡のメモに入力されているので、誰がいつどのように連絡をすればよいかを判断しやすくなりました。（中学校 校長）
- 生活指導担当と養護教諭が連携して欠席の記録を残すことで、日々の欠席の状況や累積件数等を把握しやすくなりました。（小学校 養護教諭）
- 保護者からのメモが一覧で見られ、全職員で情報を共有しやすい。（中学校 副校長）
- 保護者が有効性を感じている。教職員が欠席連絡の際、家庭に電話連絡が繋がらなくても、お知らせ配信することで内容を伝えることができる。（中学校 副校長）
- お知らせ配信には写真も添付できるので、校外学習での様子を即日配信したり、学級だよりの配信にも活用。運動会の保護者席についてアンケートも配信しました。（小学校 校長）
- 紙の手紙だと保護者に渡すのを忘れる児童がいるので、重要な内容の手紙で、必ず保護者に伝えたいものをお知らせで配信。電話をかけたが繋がらなかった家庭に、どのような用件だったかを「予約お知らせ配信」で連絡したりしている（小学校 校長）

3 学校に行きにくくなっている児童生徒の増加



- 1年間不登校が続き、家庭とも連絡が取りづらかったご家庭から、COCOOで欠席連絡が入るようになった。COCOOを導入してから、当該生徒は学校に登校できるまでに変化した。
- 部活動のお知らせや、不登校生徒保護者への連絡にお知らせ配信を利用している。（中学校 一般教諭）
- 不登校の子に関してCOCOOで欠席連絡が入っても後ほど電話連絡はしていますが、保護者の好きな時間に欠席連絡してもらえるのと、緊急性の判断ができるので先生にとっても連絡をする時間帯の幅が広がっている。保護者・先生双方にとって時間帯に幅を持つことがメリット（中学校 校長）
- 3日連続欠席のバッジがつくと必ず家庭へ電話する流れができています。職員全員が確認できるので、お休みが続き始めた生徒へ早い段階での対応がしやすくなった。（小学校 校長）

3 学校に行きにくくなっている
児童生徒の増加

長期欠席生徒が登校へと変化！ 迅速な情報共有から 学校と家庭の信頼関係の再構築へ

【大阪府守口市様 活用事例】1年間 連絡拒否のご家庭から COCCO導入2日後に欠席連絡が届いた！

学校とICT 特集



全教職員に欠席状況が共有されるため、学校全体でサポートができる

「誰一人取り残さない」 情報共有の可視化が生み出した新たな価値

学校のDX(デジタルトランスフォーメーション)が、学習面だけでなく保護者と学校とのコミュニケーションにおいても急拡大している。株式会社1377の学校連絡・情報共有サービス「COCCO(ココロ)」は、教員の長時間労働の解決、情報共有のしやすさ、さらには不登校の児童生徒の救済にも着目したサービスとして注目されている。今年 Big Bang 導入補助金を活用してCOCCOを導入した大阪府守口市教育委員会の鮎谷尚氏、導入から2年目を迎えた東京都墨田区教育委員会の植原哲史氏にCOCCOを選んだ理由、導入後の効果などについて話を聞いた。

多言語対応の自動音声で24時間受付
電話もアプリも欠席連絡が可能に

守口市は、国の押印廃止に伴う文書のデジタル化推進を契機にデジタルツールを導入を検討を本格化した。COCCOを知ったのは、ある学校の教頭先生から、「COCCOが優れているという保護者からの声がある」と情報を聞いたのがきっかけだ。「紙などのコストカットはもちろん、印刷・配布の手間を減らし、ひいては働き方改革にもつながる。COCCOの総合力の高さに惹かれました」と大阪府守口市教育委員会・鮎谷氏。

「誰一人取り残さない」
学校・自治体全体で子どもを守る

想定以上の効果をもたらした事例も既に生まれている。ある学校では、COCCOを導入した2日後に、

事業構想×デザイン思考から生まれた教育DX 「COCCO」がもたらした変革

コク

守口市では、欠席連絡以外にも、写真に短文を添えた簡易版学校便りなどの発信をしている学校もある。長期休暇中もこまめに発信できるため、教員や子ども

1年間、不登校が続く、家庭と連絡が取りづらかった生徒の保護者から連絡があったという。それをきっかけとして学校が対応を続

「誰一人取り残さない」というCOCCOの理念が胸に落ちました」と語る。「蓄積されたデータから子どもたちの傾向・推移を分析し、個に応じた支援につなげていくためにも、COCCOの活用で『教育の質』を高め、ひいては子どもたちの学校生活をより豊かなものにできるよう努めていきたいです」と今後の抱負について話した。

時間やコストを節約するだけでなくより良い学びの未来へ

墨田区は3年前、災害時の対応も含めて保護者と確実に連絡を取り合えるシステムの導入を検討し始めた。デジタル化で校務をシンプルにし、人にしかできないことに時間をかけたという思いで業者を絞り込んだ。ちょうどその頃、ある学校の校長先生から「COCCOが優秀」との情報が入った。「誰一人取り残さない」がCOCCOの理念。子ども、保護者、教員

<p>1 欠席連絡自動受付</p> <p>電話とWebで24時間受付</p> <p>電話音声は多言語対応 (日本語/英語/中国語/スペイン語)</p> <p>出席簿形式 ダウンロード & 印刷可能</p>	<p>2 家庭への連絡</p> <p>アンケートも簡単作成</p> <p>電話やスマホ、PCでの受信 印刷OK!</p> <p>保護者カレンダーにリアルタイム表示</p> <p>メールや音声メッセージの一斉配信 & 自動集計も対応</p>	<p>3 カレンダー共有</p> <p>プリント配布の手間を削減</p> <p>クラス別/全校単位も登録可能</p> <p>予定変更の通知も対応 ご家庭の予定の追加もOK!</p>
---	--	---

革新性の高い3つの機能

三方が幸せに。真のDX化は暮らしをよくしてくれと考えている私たちと共通するものを感じました」と墨田区教育委員会・植原氏。墨田区は外国人世帯も多く、なかには学校だけが社会とのライフラインという家庭もある。誰もスマホを持っていない家庭や日本語での対話が難しい家庭ともコミュニケーションがとれることを重視して、保護者が登録した固定電話でも24時間欠席連絡ができる多言語対応の、COCCOを採用した。

朝の職員室の電話がほぼ鳴らなくなった

出欠連絡は24時間自動集計なので朝の教員の業務に余裕が生まれ、子どもたちとの対話が増えた。毎朝、不登校気味の子どもの前で欠席連絡をするのが苦しかった保護者も、COCCOで心の負担が大きく減った。保護者からのメッセも、管理職やその他の教員も見られるので教員同士で自配りができるなど、COCCOが学校のあちこちでコミュニケーションの種をまいている。

区全体で子どもたちを支援

墨田区は、学校と自治体をつなぐ「自治体COCCO」も利用している。欠席者数、欠席理由などを教職員や保健所が入力せずとも統計データとして自動集計され、リアルタイムで学校から自治体に情報共有できる。

墨田区内35校への導入は、準備の度合いに応じて3グループに分け、準備が整ったグループからリレー形式で順次スタートした。「先行グループの感触がよいと後に続くグループのモチベーションが上がる。ノウハウも享受できてストレスがない。3カ月で全校導入することができました」と植原氏は話す。

最後にこれからのCOCCOを使用した教育の在り方について、「COCCOがコミュニティになって皆で子どもを育てられたらいい。これからは学校が『人』を育てる場であり続けられるDXを目指します」と語った。

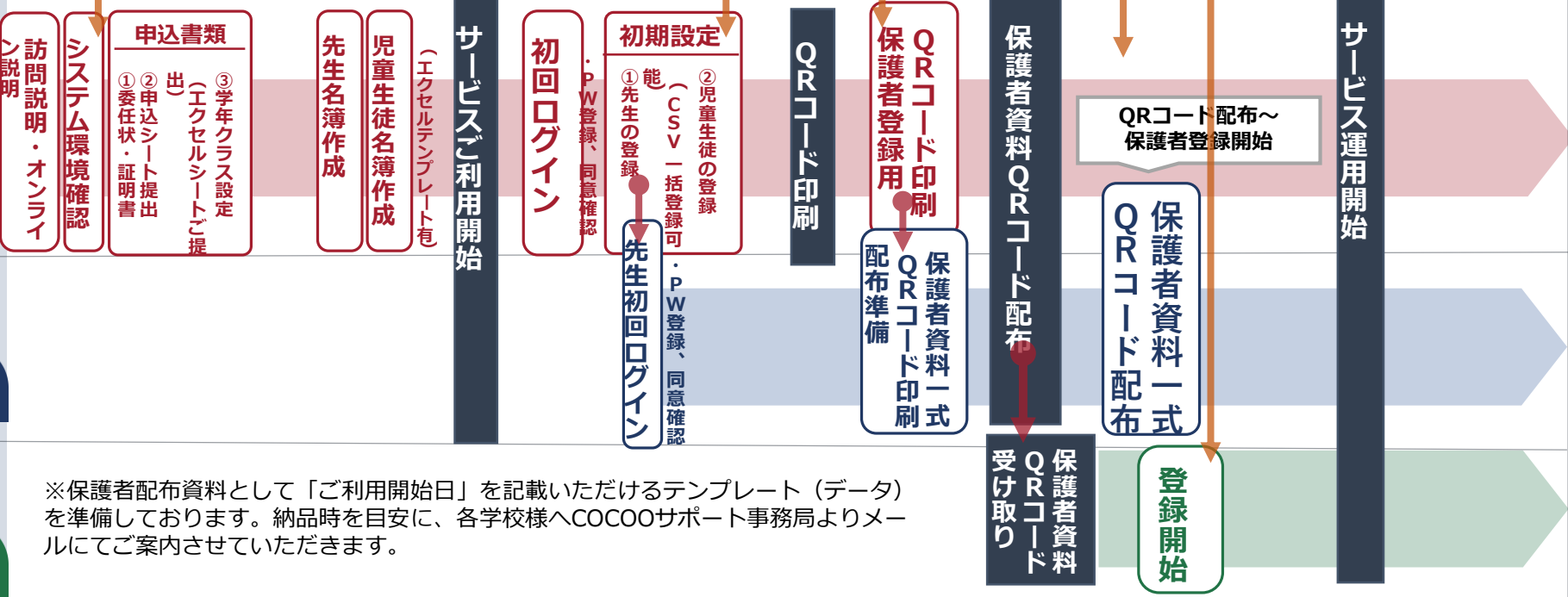
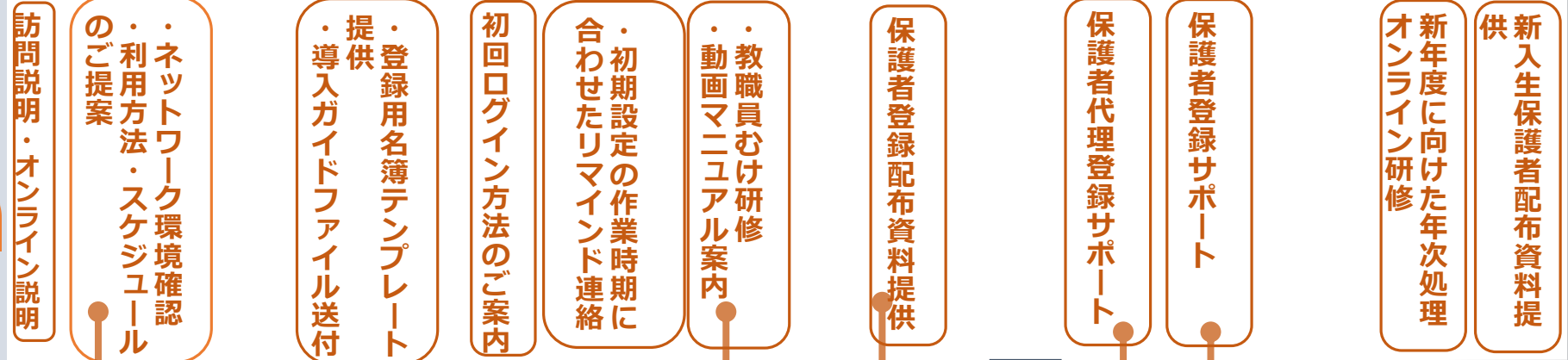


■ 補助事業において実施したサポート内容



お申込み～準備期間 (約1ヶ月) | 初期設定期間 (約2週間) | 教職研修・保護者登録期間 (約1ヶ月) (オンライン研修期間・動画マニュアル有) | 運用開始

【通常サポート業務】 電話(自治体職員・教職員専用)・保護者メール・お問い合わせフォーム・チャット



※保護者配布資料として「ご利用開始日」を記載いただけるテンプレート（データ）を準備しております。納品時を目安に、各学校様へCOCOOサポート事務局よりメールにてご案内させていただきます。

【COCOOサポート窓口】

①教職員専用 電話問合せ
コールセンター
TEL 050-****-****
営業時間 平日9:00 - 17:00

②サポート事務局宛 メール
cocoo.support@137.co.jp

③お問い合わせフォーム

📧 お問い合わせ

④チャットで質問

💬 チャットで質問

＜ご注意＞
なりすまし等のリスク抑止のため、保護者様はお電話によるお問合せはご利用いただけません。保護者様は、メール、お問い合わせフォーム、チャットで質問をご利用ください。



■ 補助事業において実施したサポート内容

【2022年度 導入校へのCOCOOサポートの一例】 ※通常サポートと同様

お申込み・準備期間

初期設定・研修期間

保護者登録期間

運用開始

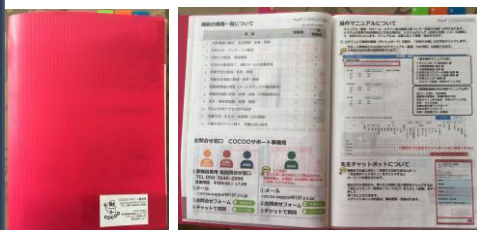
【補助事業におけるサポート例】 ヘルプデスク電話 (自治体職員・学校の教職員限定) ・ メール ・ お問い合わせフォーム ・ チャットボット



COCOO
サポート

サービス申込み

- ・導入運用スケジュール策定
- ・自治体/学校 説明訪問
- ・導入ガイドファイル送付(1校1冊)
- ・COCOO登録用名簿テンプレート送付



サービスご利用開始

- ・教職員様向け、使い方研修 (オンライン又は訪問対応)
- ・動画マニュアルのご提供



保護者登録 保護者説明会

- ・保護者様向け資料のご提供 (ひらがなルビ付、多言語版あり)



サービス運用開始

- ・電話によるヒヤリング、活用事例のご紹介

【年次更新研修実施 (計2回)】

【次年度に向けたオンライン研修会 計5回開催】

- ・紹介編、実践編 各2回
- ・管理者編 各1回



【自治体&学校教職員対象研修開催】 (訪問または オンライン)

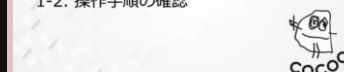


- ・COCOOサポート事務局による 保護者情報代理登録サポート

- ・COCOOサポート事務局による 保護者登録サポート

1. 新年度に向けたご説明

- 1-1. スケジュールの確認
- 1-2. 操作手順の確認



- ・COCOOサポート事務局による 保護者お問合せ対応

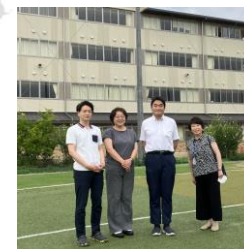
教職員

保護者

【EdTech2022 新規導入】 全国87アカウント（8自治体）

自治体別 アカウント発行数一覧

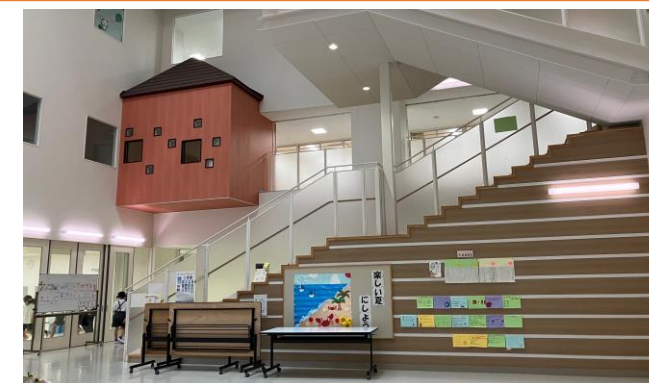
自治体名	小学校 (アカウント)	中学校 (アカウント)	高等学校 (アカウント)	教育支援教室 (アカウント)	導入数 合計 (アカウント)
横浜市教育委員会	23	18			41
守口市教育委員会 小中学校全校導入	14	8			22
広島県福山市教育委員会	1	2			3
神奈川県葉山町教育委員会 小中学校全校導入	4	2			6
大阪府泉大津市教育委員会	8	2			10
奈良県下北山村教育委員会	1	1			2
神奈川県海老名市教育委員会	1	1			2
川崎市教育委員会				1	1
総 計	51	35		1	87



【主な学校ごとのCOCOO欠席連絡 月別受信数】

全国8自治体87校アカウントのうち、主な学校での利用状況の抜粋

学校名	児童生徒数(人)	7月	8月	9月	10月	11月	12月	欠席連絡総数(件)
横浜市A小学校	735	9,827	1,631	11,095	11,618	11,477	9,923	55,571
横浜市B小学校	844	0		306	1,348	1,896	1,585	5,135
泉大津市C中学校	681	632	354	915	934	794	789	4,418
横浜市D中学校	732	589	179	765	711	800	700	3,744
福山市E小学校	768	700	0	528	682	848	776	3,534
守口市F学校	631	586	176	768	590	516	745	3,381
守口市G小学校	297	492	101	525	426	500	744	2,788
泉大津市H小学校	564	316	233	123	476	589	509	2,675
横浜市I中学校	639	0	0	34	729	820	694	2,277
福山市J中学校	452	387	92	602	372	378	394	2,225
守口市K小学校	528	286	131	430	402	472	473	2,194
守口市L小学校	621	476	91	358	418	383	394	2,120
守口市M小学校	483	296	80	427	393	460	421	2,077



■ EdTechツールによる活用効果

1 先生の長時間労働

● 導入効果1：教職員の業務負担を大幅削減

- ・これまで朝の登校時間に集中していた欠席連絡も、24時間 途切れることなく保護者からの情報を自動集計できる環境に(図1参照)。
- ・保護者からの欠席連絡のメモが、詳細を把握するだけでなく**緊急性の判断にも役立った**。
- ・**個別最適な より良い学びの未来づくりのサポートに、教職員の働き方改革も同時並行**で実装。
- ・プリントの印刷業務/アンケートの集計作業に追われていた時間を、**デキタスを用いた授業の構成検討や生徒との時間に当てられるようになったことに加え、節約できた紙代・インク代を学校の設備費に回す**等の相乗効果も実現。
- ・**保健簿（1年保存）を、COCOOの集計画面を活用**することで、ホワイトボードへの毎朝の転記や集計・保管の手間が格段に減った。

2 情報共有の非効率・不確実性

● 導入効果2：学校と保護者、教育委員会とも情報共有が実現

- ・**保護者からの欠席連絡のメモ(原文)が、そのまま全ての教職員に情報共有**されることで、担任の先生だけでなく**学校全体で児童生徒を見守る体制**が構築可能に。
- ・**生活指導担当と養護教諭が連携**して欠席の記録を残すことで、手間を増やすことなく日々の欠席の状況や累積件数等を把握しやすくなった。
- ・重要なお知らせはCOCOOでもお知らせ配信したり、電話をかけたが繋がらなかった家庭にその内容をお知らせ配信したりと、**プリント配布・電話以外の伝達方法で、先生の業務負担を増やすことなく家庭への連絡をより確実に**。
- ・学校外からも利用できることで、**校外学習での様子を写真付きで即日配信**したりと、保護者にとって**学校と繋がっている安心感・教員への信頼感**が深まった。

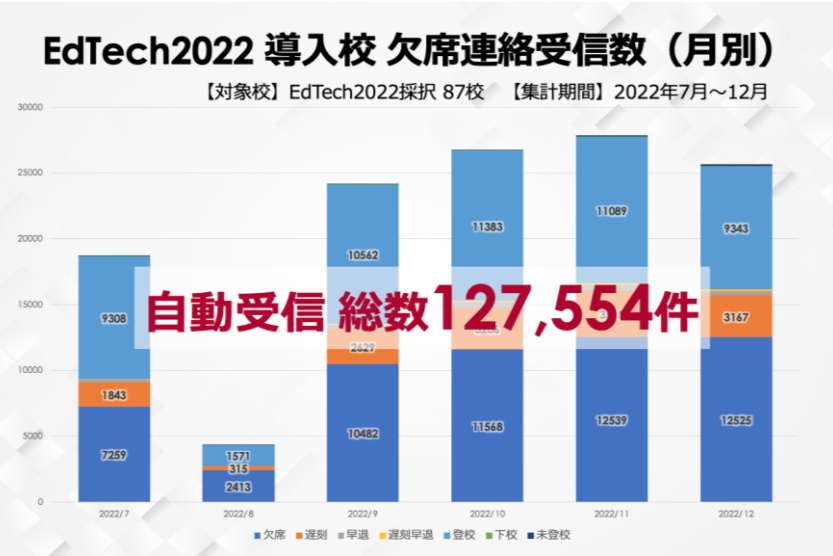
3 学校に行きにくくなっている児童生徒の増加

● 導入効果3：文字入力により保護者の負担軽減、対話の実現に寄与

- ・**保護者の好きな時間帯に欠席連絡**ができる利便性の向上と、文字入力により心の負担が軽くなることにより、不登校のご家庭にとっても対話がしやすい環境に。
- ・**不登校が続き、家庭とも連絡が取りづらかった生徒のご家庭から欠席連絡が入るようになった**。
- ・**3日連続欠席の児童生徒を全職員で確認**でき、教員同士の目配せ・声かけもしやすく、必ず家庭へ電話するなど**欠席が続き始めた生徒へ早期の対応**がしやすくなった。
- ・月別/曜日別、行事の前後の欠席者数、感染症による欠席者数など、**データを蓄積**することで**推移や傾向を把握し、子ども一人ひとりの多様な幸せを重視した教育・人材育成**に繋がられる。

EdTechツールによる活用効果

● EdTech2022 導入校87校 欠席連絡 受信数と削減効果 2022年7月～12月の6ヶ月の間に、欠席連絡総数(127,554件)を自動受付・自動集計しました。

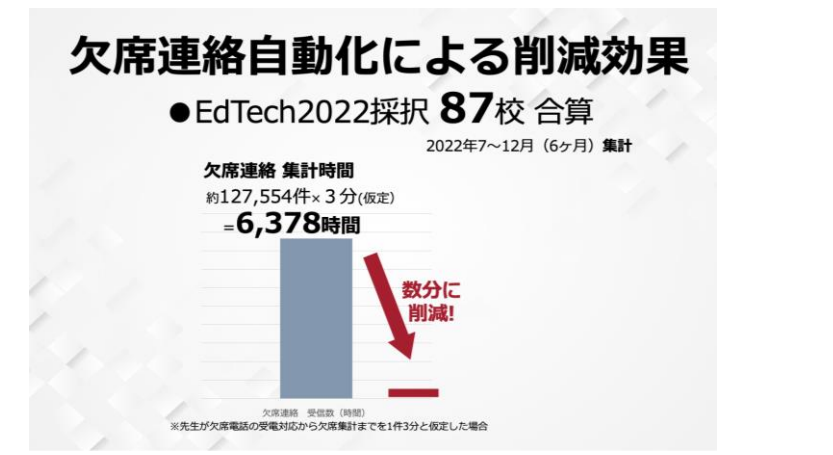


・保護者の利用時間帯別の受信状況から、24時間途切れることなく保護者から連絡を受信しており、教職員が学校にいない時間帯においても、多様な保護者の生活時間に合わせた欠席連絡を含めた保護者連絡の情報集計、双方の利便性の向上、抜け漏れのない情報共有環境を提供できた。

・朝の7～8時の間に欠席連絡が集中しているが、これまで朝の欠席連絡に学校の電話回線が話中で繋がらないなど、保護者と学校現場の電話通信環境も改善された。

・COCOOはシステムに組み込まれた専用電話とWEBの両方から欠席受信を集計を実現し、スマートフォンを持たない保護者や家庭にとっても、個別最適な情報アクセス手段が提供できた。

これまで欠席連絡の受電対応を1件あたり3分かかっていたと仮定すると、約6,135時間が先生が自由に使える時間となります。例えば新たな学習への探求/研鑽や授業準備、欠席状況のデータ(エビデンス)に基づいた児童生徒への必要な支援などに充てることが可能になります。



【EdTechツール導入効果発表&意見交換会開催】
横浜市立神大寺小学校様主催 経済産業省視察



【大阪府守口市様 日本教育新聞掲載 好事例】
長期欠席児童 学校と家庭との信頼関係構築コミュニケーション



■ EdTechツールを活用した児童・生徒・教員のコメント感想等

【A中学校様】

- ・1日約20件 COCOCOで連絡を受け付けている。
- ・朝の欠席電話の本数が少なくなった。
教職員の負担軽減につながっている。
- ・電話の音に気をつけなくてすむようになった。
- ・先生方は別のことに時間を使えるようになった。
- ・それまでは他学年の先生が欠席連絡を受けてしまうと「聞きそびれ」もあった。
COCOCOでは文字で残るので良い。
- ・COCOCOは朝の負担軽減になっている

【B中学校様】

- ・朝の電話が減り、学校から掛ける回数も少なくなった。
- ・これまでは、先生方も朝の時間バタバタしていたので**落ち着いて対応できる**のが助かる。
- ・なかなか学校に足を運べない生徒も一定数いるが、これまでは担任の先生だけが主に欠席連絡だけを聞き取れていて、ほかの先生への共有はあまりなかった。現在は欠席連絡とともに「先生への伝言」を活用して状況を知らせてくれるご家庭もあり、**様子がわかるようになった。担任以外も見ることもできるので、ほかの先生達も把握しやすくなった。**
- ・アンケート集計が楽になった。これまで用紙で回収、先生方が一から手入力をしてきた作業がシステム上で集計できて助かっている

【C小学校様】

<欠席連絡>

- ・毎日使っています。保護者からの**毎朝の欠席連絡は少なくなりました。**
- ・各先生方はiPadを使って教室でもCOCOCOを確認できるようになった。
以前は職員室で連絡を受け、教室にいる先生へ連絡、そしてまた職員室という流れになっていたため負担が大きかったが、**担任もスムーズにiPadでCOCOCOの欠席状況を確認**できている

<お知らせ>

- ・コロナの陽性者、罹患者情報を配信 ・学年だよりで配信
- ・**お知らせ配信により、印刷にかかる労力、費用も少なくなった。**
- ・保護者へのプリントの渡し忘れがあったので、COCOCOで保護者へ連絡が伝わりやすくなったと感じる。



【EdTech ツールの導入・運用における課題】

【導入・運用における課題】

1. 導入希望学校の予算確保の壁

- ・COCOOは、なくてはならないシステムツールと感じています。次年度も継続して活用し続けたいため、特に小規模の学校では予算確保に壁があり苦慮しています。
- ・いろいろなアプリがあり、何を使えばよいのかが非常に悩むところです。費用と効果を計測するには、ある程度時間をかける必要がありますが、COCOOの導入効果は、非常に高いと感じます。

2. 教員間のICT活用スキル格差

- ・軌道に乗るまでは教員の意識にも差があり、なかなか初回ログインまでいかないこともあった。使う人が増えるにつれ利便性が伝わり、現在はほぼ全員が使えるようになっている。
- ・養護教諭や管理職が入力しているサーバランスに事由を合わせてほしい。
- ・自治体のセキュリティでは、データのアップロードやダウンロードが困難なので、各種登録に二手間くらいかかった。パソコン関係が苦手な職員では担当になれないと感じた。

【今後、解決するための改善策】

1. 教育DXとしての予算確保

- ・COCOOは教職員の働き方改革にもつながり、さらに自治体ともデータ連携や可視化ができるので、自治体の公費として全校導入して欲しい。
- ・長期欠席者の対策なども重要な課題の中、対策や対応には教職員の経験や勘に頼る対応の判断にとどまることなく、蓄積された欠席データなどをスクールカウンセラーなどの専門家とも連携し、個々に合わせたより良い学びの環境づくりにデータを活用していく必要があると感じるため、公費で予算をとってほしい。

2. ICT支援員の積極的活用

- ・ICT支援員を積極的に活用できている自治体や学校は、教職員の利用状況も高くなり、より利便性高く感じてもらっていることが多い。教職員だけでなく保護者にとっても、COCOOはなくてはならないツールとして評価が高いことから、教職員のスキルに格差があっても、先生方がICT支援員をより上手く活用できる仕組みづくりがあれば、個人のスキルに依存することなく、DXとしての価値が体感されるだろう。

代表取締役社長

黒田 千佳

設立

2014年1月（2014年11月より営業開始）

URL

<https://www.137.co.jp>

主な事業内容

社会課題解決に向けた事業構想(プロジェクトデザイン)、新規事業企画開発
Webコンテンツの企画開発、運営販売に関する事業
人材育成・教育に関する事業

本社 東京都港区南青山4-17-33 グランカーサ南青山2F
COCOOお問合せ メール cocoo.support@137.co.jp
COCOOサポート事務局 TEL 050-3646-2566

資本金 ¥5,000,000（2022年9月末現在）

サービス導入実績 2022年12月末現在

【緊急時情報伝達システム「5co Voice」（ゴコボイス）】

横浜市金沢区様、東京都足立区様、横浜市青葉区様、横浜市都筑区様、
横浜市南区様、横浜市港北区様、横浜市西区様、横浜市鶴見区様、
横浜市旭区様、横浜市神奈川区様、埼玉県吉川市様、埼玉県上尾市様、
栃木県市貝町様、群馬県藤岡市様、群馬県玉村町様、兵庫県明石市など

【学校連絡・情報共有サービス「COCOO」（コクー）】

東京都墨田区小中全校 35 校、横浜市立 70 校、広島県福山市立小中 9 校、神奈川県茅ヶ崎市小中学校全校32校、
静岡県特別支援学校全校/中高一貫校 /県立高等学校 計 28 校、岐阜県瑞浪市小中全校 10 校など

2022年12月現在 全国 約270 校（アカウント） ※EdTech2022補助金導入数を含む



EdTech導入補助金2022活用による成果の分析と考察

より良い学びの未来をつくる
学校連絡・情報共有サービス

COCOO (コクー)

For teachers and school administration
For parents
For children & students



【教育DX COCOOが目指していること】

誰一人取り残さない 人間中心設計のシステムデザインによる
デジタル社会に向けた より良い未来の教育環境づくり

① 誰一人取り残さない 情報共有インフラ構築による新たな社会的・経済的価値の創出

教職員の業務負担軽減とコスト削減、さらには誰一人取り残さない人間中心設計のシステムデザインによる学校と家庭の連絡・情報共有。そして利便性の向上により生み出された時間や心の余裕などから、個別最適な「豊かな学び」と「健全な育成環境」に繋げていく。

② リアルタイムな情報共有によるデータの可視化、エビデンスに基づくアプローチの支援

教育DXが生み出すデータの利活用を通し、新たな社会的・経済的価値を創出する。教職員の業務負担軽減にとどまらず、データ利活用=エビデンスに基づいたより良い教育環境の構築と、個別最適な育成やケアの好事例を官民連携で共につくり、多くの自治体・学校へ共有していきたい。

教育にエビデンス（科学的根拠）のあるアプローチへ

【EdTech導入補助金2022活用による成果の分析と考察】

●2022年度のEdTech補助金活用 COCoo申込（採択）数は、
全国87アカウント（8自治体）

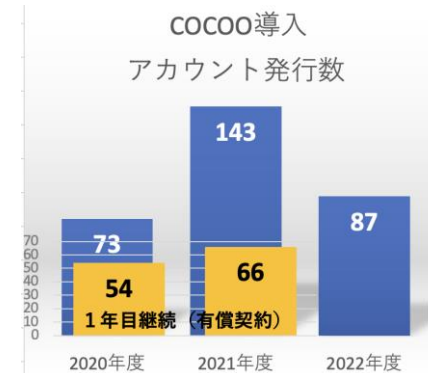
<参考：EdTech補助金活用のCOCoo申請数>

2020年度 全国73アカウント 次年度継続54（継続率74%）

2021年度 全国143アカウント 次年度継続66（継続率46%）

EdTech補助金活用によってCOCoo認知は広がり、導入校での
活用評価は高い。

補助金活用期間後の有償による翌年度（2020年度）の継続率は
74%、2021年度は46%だが、2020年度有償導入校の2年目の
継続率は100%となっている。



●お申込みから導入、先生や保護者登録を含めた運用開始のサポートも慣れ、オンラインを活用した導入説明会を複数回開催。活発な質問が、より実務に合わせて具体的な活用方法にも及んだ。

●2022年年夏には、大阪府守口市教育委員会のご協力をいただき、各学校ごとに教職員との意見交換やヒアリング、導入支援説明のため、守口市の小中全校32校全校巡回訪問を実施。教職員の士気も上がった。

<不登校家庭へのアプローチから学校現場と教育委員会が学んだこと>

「昨年1年間、保護者と連絡も取れない不登校の家庭に、家庭訪問や電話連絡、手紙など、さまざまな手段を取ってきたが、学校や教育委員会からの連絡は全て拒絶されていた家庭があった。COCoo導入二日目に、なんとそのご家庭からCOCooの欠席連絡が入り、その後、COCooを通して文字による保護者とのコミュニケーションをとることができるようになった。今では、生徒が学校にこれるまでになり、COCooの導入によって、大きな変化が起きました。」

「これまで、家庭訪問や電話によるプッシュ型のアプローチをとってきたが、拒絶されてきたご家庭でも、保護者によっては、ご自身の都合よの良い時間に、文字によるコミュニケーションなら連絡が取れるということ、今回初めて知りました。私たちにとって大きな学びとなりました。」との教育委員会と教職員からCOCooサポート事務局へ連絡が届いた。

今回のような、不登校対策の支援にも「個別最適なコミュニケーション」とそのための「情報共有ツール」が必要として、新たな価値の創発につながる事例として日本教育新聞に掲載された。

●教育DX COCooは、誰一人取り残さないをテーマに、教育現場の「課題解決」と「未来創造」を兼ね備えたWEBサービスとして、コロナ禍でも学校と保護者・先生同士の情報共有の利便性を高め、先生の業務負担軽減により生徒と向き合う時間が増加。